

(4) 「学びを地域に発信する」実践計画

地域行事「科学の祭典 in 鹿本」～わくわく面白実験！～

地域行事として、「理科離れの傾向にある子どもたちに、理科の面白さ、楽しさを体験させる」目的で、山鹿市小中学校理科部会を中心に「科学の祭典 in 鹿本」を実施している。

この「科学の祭典 in 鹿本」は、実行委員長の富田徹也先生（本校サイエンスサポーター）を中心に、小中学校の先生方をはじめ、中学生や高校生のボランティア、退職の先生方などの実行委員のほか、県立教育センター、御船恐竜博物館からも協力をしていただき開催している。本校の職員も各ブースの一角を担っており、平成 29 年 2 月で、11 回目を迎えたところである。本校の児童の参加はもちろん、山鹿市・山鹿市近隣の園児・児童・生徒が参加し、科学の面白さや楽しさに触れている。



ほえる！紙コップ怪獣 ほか
(小学校の先生ブース)



ブンブンゴマ ほか
(退職の先生方のブース)



植物の組織培養
(鹿本農業高校のブース)

(昨年の科学の祭典 in 鹿本の様子)

そこで、来年 2 月に実施される「第 12 回 科学の祭典 in 鹿本」に、**本校児童が考えたブース**を開設する。ブースを開設することで、本校の理科学習での学びや理科の楽しさを、校区はもちろん、**他の校区にも発信**できる。またブース開設までに児童は、様々な活動をし、思考・表現していくことになる。そのときに様々な能力が発揮されると考えられる。(対象児童は、理科委員会や 4、5、6 年を予定)。

	活動	予想される児童の考えや発言	発揮される能力
ブ ー ス 開 設 ま で の 過 程	①これまでの学びや体験の見直し、発信する内容を検討し、決定する	<ul style="list-style-type: none"> 小さい子どもでもできるような活動を発信したい。 楽しんでもらえる活動にしたい。 豆電球で回路を作って、じゃんけんゲームをしたらおもしろいね。 科学展で行った研究や実験を紹介してもいいな。1 年生が研究した「大きなシャボン玉」は？ サイエンスタイムでやった「よくとぶ紙飛行機」作りは、楽しめそうだな。 「イライラ棒」で、楽しんでもらうのはどうかな？ 	発想力 創造力 取捨選択力
	②どのような方法でブースを開設するのか検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 「紙飛行機」や「大きなシャボン玉」は、実際に一緒に作って楽しんでもらうことができる。(制作活動→体験活動) 「じゃんけんゲーム」や「イライラ棒」は、私たちが学校で作って、当日は、私たちが作った物を体験して楽しんでもらう。でも、仕組みは説明する(体験活動) やり方をポスターにしたり、プリントして配ったりしよう。 	計画力 構想力 判断力 表現力
	③ブースを開設する。	<ul style="list-style-type: none"> 手順や仕組みを説明するのは難しい。 来てくれた人が楽しんでくれるから、自分もうれしい。 自分たちで計画した実験は楽しいな。 	会話力 コミュニケーション力

「科学の祭典 in 鹿本」で児童がブースを開設するまでに、①、②の活動に十分な時間を費やすことになる。児童自身に計画・立案させることで、主体的で深い学びにつながっていく。また、これまでの学びを振り返り、児童はたくさんの理科学的な学びを経験してきたことに気付くであろう。さらに、ブースを開設した後は、やり遂げた充実感と満足感を味わうことにつながるであろう。